

高齢者ケア南地区センター・アスターズバイ訪問

(Lokalcenter Astersvej)

レポート：杉本 陽一

★はじめ

私がデンマーク研修で最も印象に残ったのは、『高齢者ケア南地区センター・アスターズバイ』です。下記が感想レポートです。

この施設は認知症専門の在宅ケアホームで、デンマーク研修で最初に訪問した施設です。まだ時差ボケも解消していない自分がいて、また逆にかなりハイテンションの自分も同時にいたことを覚えています。上記の施設を訪問した結論は「思いつきり泣いた」という事実です。日本では数十回の研修に参加していますが、感動して泣いたというのは初めてでした。一瞬泣いたのではなく終始泣いていました。超感動でした。下記に感動したことをご報告させていただきます。

★デンマークの障がい者に対する基本理念

認める！やさしく接する！「認知症の利用者のすることは間違っていないと論しながら自分でできることは自分でするように促し、できないことも信頼関係をつくり優しい言葉がけを根気よく行えばできるようになる。」という言葉に私自身普段から「障がい者に対して出来ることの芽もつんでしまっている」など思いました。デンマークとは人員配置の違いもありますが面倒だからしてあげるという支援をしているように見え、自分が悲しくなり泣いてしまいました。涙を隠そうといろいろ努力しましたが次々と流れる涙は止めようもなく溢れたのを覚えています。

★職員さんの熱心さについて

担当職員さんはかなりの熱弁で施設案内をしてくれました。その説明の中で職員は毎日アイデアを持ってくるよう指導しているという点で職員ひとり、ひとりも主役であると感じました。自己責任というお国柄の厳しさの一面も感じました。

★利用者さんの部屋・生活の様子について

視察しての結論は「認知症でありながら、生活を楽しんでいる。言いかえれば楽しめる環境が整っている」という感想です。ケアホームの部屋には、個人の若いころ、家族全員、好きなものの写真がたくさん置かれてあり人生は継続という考え方を象徴していました。この時点でも、まだ涙はとまっていませんでした。また二人乗りの自転車で仲良く遊んでいる姿は今でも忘れられません。更に当たり前のようにあるりんごの木や、澄んだ空気は、もう一度体験したいものです。

★最後に

施設全体に合理的配慮が施されていて、暗い雰囲気はみじんも感じませんでした。職員さんも熱意があり自分も認知症になったら入所したいと感じました。とても素敵なデンマークでの一日でした。ロスキル大聖堂の鐘の音が忘れられません。